一般質問

議案以外の市政全般に関する質問を一般質問といいます。
22名の議員が行った一般質問のうち、主な質問と答弁の要旨等を掲載しています。

自由民主党・仙台

やしろ 美香 議員
ICT（情報通信技術）

問　ICTの進歩に遅れてはならない。光通信発祥の地・仙台市としての取り組みについて伺う。

答　昨年策定したICT戦略により、市民サービス充実に向けた利活用を進めていく。

○津波情報伝達システム事故を教訓とした職員の気構え
○地域の商店の風評被害対策
○低所得家庭の低学年児童に対する学習支援の拡充

菊地 崇良 議員

○復興に向けた国への追加要望
○仮設住宅入居基準・みなし仮設の再契約条件の見直し
○移転先での地区集会所整備
○既存市道・ほ場整備と連接した津波避難道路等の整備
○復興を見据えた市民センターとスポーツ施設の適正配置
○領土問題等に関する国際都市仙台の歴史・公民教育等
○パンダ導入による財政負担と中国領事館問題への懸念

加藤 和彦 議員

愛子地区は都心に近く地盤強固だ。バイパスの延伸と沿線の活用で、物流拠点として発展が期待できる。その将来の使命と発展計画を伺う。

答　ご提案の物流拠点は可能性の一つ。その実現には地域全体での将来ビジョンの共有が肝要で、地元の意見を聴きながら街づくりを進めたい。

○愛子地区の教育機関の充実
○科学技術開発の推進等

赤間 次彦 議員

問　宮城野の貨物ヤード等市街地内の広大な土地の利用については、本市から協議を求める等積極的に関与すべき。

答　地権者からの具体的な相談等に基づき、地域づくりに必要な協力をしていきたい。

○集会所再建・市民センターへの冷房設置等の地域支援
○震災孤児に対する就職支援
○スポーツ振興に向けた支援
○ネーミングライツの活用

伊藤 新治郎 議員

問　尖閣諸島の領有権問題等、中国との間で国家の安全を脅かす事態が起きている今、本市の姿勢を示すため、パンダ誘致をいったん留保すべき。

答　パンダ誘致の交渉は、日中関係の正常化の下、市民の理解を得た上で進めたいが現時点では留保という状況に至るものとは考えていない。

○中国総領事館設置への懸念
○中国との外交に係る認識

市民フォーラム仙台

小野寺 健 議員

○年金等の社会保障において「現役世代が不幸だとは一概にいえない」とする厚生労働白書の認識は無責任。本市の就労・子育て支援拡充を。
○地域主権改革関連法により条例制定権が拡大された法律や事務の概要と奥山カラー
○待機児童ゼロにするために

整備が進む錦ケ丘地区と物流の大動脈としての可能性を有する愛子バイパス

○小学校の外国語活動の現況
○開校後3年が経過した仙台青陵中等教育学校の課題

小学校における外国語活動の様子

佐藤 わか子 議員

問　市職員の評価制度を給与に反映し、やる気の創出を。

答　部長職以上の職員を対象に来年6月の勤勉手当から業績評価の結果を反映したい。

○新規採用試験や異動サイクルの見直しで市役所改革を
○いじめ対策に教師資質向上
○コミュニティソーシャルワーカーを活用した地域福祉充実
○早急に過疎化対策の検討を

岡本 あき子 議員

問　女性・障がい者・地域の代表が参画し、開催した本市地域防災会議の評価を伺う。

答　それぞれの立場から避難所運営や防災活動など多様な切り口のご意見を得た。今後の取り組みに大いに参考となった。

○復興公営住宅に高齢者福祉、見守り、地域・世代交流促進、緊急通報の機能を持つ施設等の整備を求める。
○専門NGOを防災協定対象に

復興仙台

岡部 恒司 議員

問　国の復興予算が被災地復興以外の事業にも充てられている。市長は国に強く是正を求めるべきだがいかがか。

答　被災地と国の信頼関係に悪影響を及ぼすものであり、市民の心情を国に訴えたい。

○ネーミングライツの積極活用
○市庁舎の分散化に伴う課題
○工事現場の資材・技術者不足
○国・県・市の事業調整による復興事業の円滑実施を

庄司 俊充 議員

問　身近な三世代スポーツであり、福祉への貢献も期待されるパークゴルフの活用を。

答　気軽に楽しめるスポーツでもあり、民間施設の協力も得てゴルフ場の確保を図りたい。

○子供たちのスポーツ活動支援
○イノシシ被害の防護対策を
○農業の経営再開マスタープランと東北大学との連携
○生活保護不正受給の対応を
○生活保護者への就労支援策

渡辺 博 議員

○ミュージアム都市構想と生涯学習都市の実現
○駅東第二区画整理事業の進捗
○市立病院の医療水準向上と命を守る救急出動のあり方
○自転車の安全利用と活用
○ものづくり文化の醸成
○都市間連携を強化し交流人口の拡大を目指すべき
○ジャイアントパンダ誘致は内外情勢を踏まえリセットを
○社会福祉協議会の活性化

ネーミングライツ活用による歳入増を（ユアテックスタジアム仙台）

公明党

佐々木 真由美 議員

問　震災を風化させないための具体的なメモリアル施設と、東部地域における海抜表示の設置を求める。

答　メモリアル施設について

センダイストリートフェスタ伊達祭（写真：伊達祭実行委員会提供）

小野寺 淳一 議員

問　損壊家屋解体申請期限後の申し出への取り組みを伺う。

答　解体スケジュールの中で可能な限り対応に努める。

問　震災を踏まえ、天井の耐震化を促進すべき。

答　市独自対策を検討する。

○塀の高さ規制の仙台モデル
○沿道の建物の耐震診断義務化
○耐震改修工法「減築」の周知
○パンダ誘致の見直し
○国際的な防災会議の誘致

自由民主党

大泉 鉄之助 議員

問　副市長3人体制においては職責の全うとともに、停滞の感がある行革に対し、さらに「泣いて馬謖を斬る」覚悟が求められる。藤本副市長に就任の思いと決意を伺う。

答　未曾有の震災復興の中、就任の責任の重さを痛感しており、行革についても不退転の決意で断行していきたい。

○防災を見据えた消防ヘリポートと消防庁舎の整備構想

行財政改革を担当し、責務の全うが求められる藤本副市長

問　地下鉄南北線各駅のエスカレーターに人感センサーを整備し節電対策を。

答　東西線も含め新設や更新の際に順次設置したい。

問　小中学校を中心に自転車運転免許証交付事業を導入し利用者の質の向上を図れ。

答　毎年行っている交通安全教室に自転車の安全利用を盛り込み、受講証明書をモデル交付していきたい。

日本共産党

すげの 直子 議員

問　学校の教室や職員室に順次エアコンや扇風機の設置を。

答　国補助や気候の状況には提案の趣旨を踏まえて、また海抜表示のあり方については、有識者による検討委員会において検討していく。

○トキソプラズマ感染症の予防について
○コミュニティバスの充実

小田島 久美子 議員

問　災害時に役立つ障がいのある方へのヘルプカード（服薬情報や緊急連絡先などを記載したカード）の導入を求める。

答　本市として事業の実施に向けた検討を行う。

○市税収入増は子育て支援に
○要介護認定者へ包括的支援を
○発達障がい児・者支援拡充
○認知症予防に脳の学習療法
○介護支援ボランティア導入
○被災宅地復旧の課題と対策

金沢市で作成したヘルプカード

見極め必要性を判断したい。

○教育費決算額は政令市移行後最低の340億円。教育環境整備の要望に応え増額を
○少人数学級を3年生以上にも拡大することを求める
○給食費の引き上げ分は家庭に負担を求めず江戸川区でのように公費で助成を

ふるくぼ 和子 議員

問　生活保護基準額の引き下げは非課税限度額とも連動し、ひいては各種制度の負担額増など市民生活全体に大きな影響を及ぼす。やめるよう国に意見を述べるべき。

答　現時点では国における生活保護制度全般の見直しの動向を注視したい。

○生活保護受給世帯の子どもへの学習支援制度の創設
○ケースワーカーの増員を

教育環境の充実が求められている学校施設

社民党

ひぐち のりこ 議員

問　官民協働で取り組んだ「ジョジョ展 in S市杜王町」の評価と今後の協働事業の展望等について伺う。

答　官民の枠を超えた取り組みの成功例として、今後のイベント開催に生かしたい。

○職員のモチベーション向上
○実効性のある地域防災計画
○職員の旧姓使用の制度改善
○発達障がいのある方に対する福祉施策と市民への啓発

相沢 和紀 議員

危険区域外の浸水区域への支援は不十分であり拡充を。また移転希望者には住宅再建手続き等の丁寧な説明を。

答　現行の独自支援の拡充は難しい。移転手続きは整理の上、全体像を示したい。

○海岸防災林再生に当たり市民団体等の支援受け入れを
○居久根など緑の回復を含めた東部地区の再生策
○塩害街路樹の早期植え替えを

限定発売された荒木飛呂彦原画展ジョジョ展 in S市杜王町スキップカード

みんなの党・みんなの仙台

及川 英樹 議員

○在宅医療におけるヘルパーや医師・歯科医師・薬剤師・看護師等の合同カンファレンスの設置と市民への正しい知識や情報の周知徹底
○認知症を患う本人や家族への情報等の提供と非徊SOSネットワークシステムにおける県と市の連携強化
○21世紀の医療は予防医学が重要。地域でのラジオ体操など運動施策の強化

早坂 あつし 議員

問　重大ないじめ事案の実態解明に当たっては、第三者委員会を設置し調査すべき。

答　速やかな原因の究明調査と事案の再発防止に向けた対応が必要不可欠である。今後、第三者委員会の設置も念頭に置きながら検討していく。

○本市での新しい屋台文化の推進
○若者たちの屋外イベント「伊達祭」についての市長の所見

調査特別委員会　中間活動報告

平成23年10月24日に設置された調査特別委員会の活動の概要が平成24年10月5日の本会議において各調査特別委員長から報告されました。

東西線整備・まちづくり促進調査特別委員会

委員長　西澤 啓文　副委員長　高橋 次男

本委員会は、地下鉄東西線の建設により基幹交通を整備し、沿線地域のまちづくりを促進するとともに、総合交通体系の確立を図ることを目的に設置されました。

「東西線の利用促進と本市の新たな魅力を創出する東西線沿線まちづくりの推進」を調査テーマとし、6回にわたり委員会を開催しました。7月には福岡市で地下鉄の利便性向上に向けた既設地下鉄の延伸と沿線のまちづくりなどを視察しました。

委員会では、開業時の景気見通し、バス路線の再編、乗客を増やす手法などについて、委員相互の意見交換を行いました。

平成27年度の開業まで時間が限られていることから、今後重点的に調査を行う必要がある事項について精査・検証し、より具体的な取り組みを進めてまいります。

地域経済活性化調査特別委員会

委員長　佐藤 わか子　副委員長　花木 則彰

本委員会は、農業の再生、地域経済の活性化を図るとともに、地域資源を活用した観光交流の促進を目的に設置されました。

津波で甚大な被害を受けた東部地域の復興に焦点を当て、「東部地域の経済活性化」をテーマに設定し、6回にわたり委員会を開催しました。2月には現地農業従事者との意見交換会を開催し、7月には北海道当別町で6次産業化への取り組みなどを視察しました。

委員会では、農業の再生について委員相互の意見交換を行い、ほ場整備等に関する相談窓口機能の充実、収益性の高い6次産業化や産学官連携の取り組み、後継者問題等への意見が交わされました。

今後とも、東部地域の農業従事者の方々の実情、農業を取り巻く現状を把握し、より具体的に焦点を絞って調査を進めてまいります。

ライフライン・新エネルギー創出調査特別委員会

委員長　石川 建治　副委員長　小田島 久美子

本委員会は、将来にわたり都市機能を支えうるライフライン整備の促進、次世代エネルギーの導入およびエコモデルタウンに向けた取り組みの推進を目的に設置されました。

これまで4回にわたり委員会を開催し、震災を経験した本市として喫緊の課題である災害時のライフライン機能強化と平常時の備えについて、また、復興への取り組みの一つに挙げられている新エネルギー導入とその活用方法について、委員相互の活発な意見交換を行いました。

7月には熊本県および北九州市で太陽光発電など新エネルギー導入の取り組みを視察しました。

今後とも、有識者の専門的な知見や先進地域の事例に学びながら、調査・研究をさらに深めてまいります。

権限と財源のあり方調査特別委員会

委員長　渡辺 博　副委員長　加藤 和彦

本委員会は、大都市としての権能強化のため、国からの権限および財源の委譲等について検証し、新たな大都市制度の確立を図ることを目的に設置されました。

これまで4回にわたり委員会を開催し、「本市の権限および財源配分のあるべき姿について」をテーマに、現行の大都市制度の諸課題として、国および他都市の議論の状況、政令指定都市の将来像や災害時の権限等について、有識者の意見聴取、委員相互の活発な意見交換を行いました。

また、7月には甲府市で大都市制度について、横浜市では特別自治市制度の実現に向けた取り組み状況について視察しました。

今後とも、他都市の動向を注視し、市民ニーズを踏まえ、望ましい大都市制度について調査・議論を深めてまいります。

次世代育成調査特別委員会

委員長　鎌田 城行　副委員長　岡本 あき子

本委員会は、次代の社会を担う子どもたちが豊かな人間性と能力を育み、健やかに育つことのできる地域社会の形成に資することを目的に設置されました。

「自立に向けた世代・環境を通じての育成のあり方」をテーマとし、中学生からおおむね20歳くらいまでを「自立に向けた世代」として調査の対象とし、7回にわたり委員会を開催しました。5月にジョブカフェ視察を踏まえた意見交換会を行い、7月には神戸市・兵庫県・京都市で学校での消費者教育の現状などを視察しました。

委員会では次代の社会を担う子どもたちを主体として、その育成のための環境のあり方について議論を深めてきました。今後とも、子どもたちが仙台というまちの未来をけん引する存在となるような育みについて議論してまいります。

••• 用語解説 •••

本文中に青文字で表記した用語を解説しています。

●コミュニティソーシャルワーカー（注1）（4面3段）
住民による地域の生活課題の解決力を高め、地域の支援機関・団体をつないで支援を必要とする方の援助を行う専門職。制度のはざまの問題解決や専門機関等の支援ネットワークづくりなどに取り組む。

●ジョジョ展 in S市杜王町（注2）（5面2段、5面3段）
「荒木飛呂彦原画展 ジョジョ展 in S市杜王町」のこと。漫画「ジョジョの奇妙な冒険」で知られる仙台市出身の漫画家、荒木飛呂彦氏の国内初の原画展。7月28日から8月14日までせんだいメディアテークで開催された。

●ゲートキーパー（注3）（6面1段）
自殺の危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のこと。自殺対策として、民生委員や相談窓口職員への研修等、本市を含め国内外で人材育成が行われている。

●SNS（注4）（6面4段）
ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネットを通じて、人と人とのつながりを促進し、双方向のコミュニケーションを支援するウェブサイトやサービスのこと。